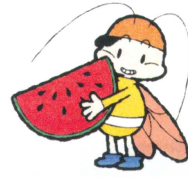


夏に多い虫さわれ



夏になると虫が多くなることや、肌を出すことが多いせいか虫さわれ、かぶれなどが多くなります。

この足柄の地は全国でも有数の蚊の多い地区だそうです。

注意したい虫さわれ

①蜂・・・すぐに受診しましょう。

ミツバチなど小形の蜂は、刺されても痛みは少なく後にもあまり問題ありません。

アシナガバチ、クマバチ、スズメバチになりますと、刺された後十分位のうちにショック状態になることがあります。刺されたらできるだけ早く医療機関を受診しましょう。



また、刺された直後はほとんど大

丈夫でも、次の日二日後位に大きく腫れ、痛みが強くなります。

一般の民間療法的な薬ではこれを抑えることはむずかしいので、本格的な治療が必要です。腫れや痛みを抑える薬、化膿止めの内服薬、痛みやカユミ、化膿を予防する外用剤(つけ薬)湿布などが必要となります。

暑い日が続く八月頃には、ハチも興奮しているのか巣の近くを歩いただけでハチにおそわれることがあります。

ハイキングなどで林の中や、草むらの中に行った時など注意しましょう。

②ムカデ・・・受診して下さい。

蜂のようにショックになることはありませんが、痛みが強く腫れもかなりありますので、早い時期から薬の内服や外用薬を使った方が良いでしょう。



③蚊、アブ、ブヨ、ノミ

刺されても大したことはありませんが、早期から腫れ、カユミ、化膿止めなどに対する外用剤を使った方が早く良くなります。

薬を使わないと掻いてしまうことが多く、子供などでは「とびひ」(伝染性濃痂疹)の原因となることが多いです。

④ケムシ

チャドクガ、アメリカシロヒトリなどが、有名ですが、表面の毛に触れると、その毛一本一本で刺されたように、小さな、水をもった発疹が接触した範囲にたくさん出て全体に赤く腫れることが特徴です。三日間で出揃うことが多いので一回に刺されたものと分からないことがあります。

これも、内服薬、外用剤、湿布などの本格的治療が必要です。植木の手入れ、その後始末や、草むらの中にポールをとりに行つたとき、玄関の近くに、お茶の木、ツバキ、サザンカなどがある時など葉についている毛虫にやられることが多いようです。

動物に咬まれた時



暑い夏には、イヌやネコなど動物に咬まれることも多くなります。暑い時は動物もきげんが悪いためでしょう。



その他、ウサギ、ハムスターなど、ペットに咬まれることがあります。動物の歯にはバイ菌が多いので、傷は大したことないように、見えても三日後位には傷口が化膿して来て、全体に膨れ、腕や脚のつけ根のリンパ腺が腫れてきます。

この時も、化膿止めの内服薬傷口の手当て、腫れた部分の湿布などが必要ですよ。

海岸、河原などで足をケガした時も、同じで、傷口からバイ菌が入りやすいので注意しましょう。

院長の論文が雑誌に掲載されました

「医師会イントラネットによる地域医療のシステム化」



7月・8月の休診日

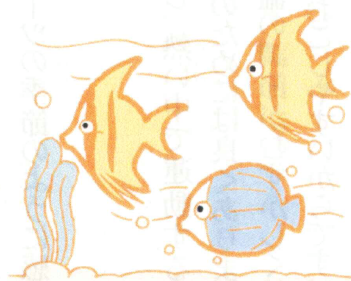
(日曜・祭日)

水曜・土曜・第一火曜午後)

8月14日(火)～

8月16日(木) 盆休

E・メールを送って下さい。
norikazu@tecnet.or.jp



みなさんの質問や投稿をお待ちしております。
☆受付けからのお願い
月初めには必ず保険証を
受付けにお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。